

校長メッセージ ～合言葉は「子どもに軸足！」～

東長良中学校 丹羽

事実の一つ、解釈は無数

私たちは、物事や出来事に対して、解釈で判断しある意味思い込みの中で生きています。その思い込みとは、正しいか誤りかではなく、その人は無意識に判断し、その人にとってはその判断しかできないということです。子どもたちのトラブルも、人間関係からの摩擦や亀裂が原因であり、それは事実ではなく解釈の差異によって生まれるものです。

3月3日（水）「いじめを見逃さない日」の朝、以下のようなことを子どもたちに伝えました。

「事実の一つ、解釈は無数」という言葉があります。例えば、出かけようと支度をしていると、雨が降ってきたとします。

「ああ、雨だ。洋服もぬれちゃうし、嫌だなー」と思うか、

「ああ、雨だ。じゃあ、先日、買ったばかりの傘を使ってみようかな。」と捉えるか。

自分の目の前に起きている事柄は変えられませんが、そのとらえ方は、自分で、変えることができます。

また、ストレスや怒りを感じたときに「誰かにストレスを与えられた」とか「自分が怒ることを誰かにされた」と思うことがあるかもしれません。

しかし、驚くべきことかもしれませんが、他人があなたを直接傷つけることはありません。悲しいことに、自分自身が自分を傷つけるのです。

例えば、いきなり電車の中で隣の人に舌打ちをされたとします。それは「事実」です。しかしながら、人間はその事実は何らかの解釈を付けたくなる動物です。きっと、こんなふうに、人それぞれのはずです。

A：「いきなり私に向かって舌打ちするなんて失礼だ。許せない。」

B：「腹立たしいことを一人反すうして、舌打ちしたんだろうなあ。かわいそうに……」

C：「もしかして、私、気が付かないうちに何か気に入らないことしちゃったのかな？ 怖いよ～」

D：そのような解釈をせず（全く気にならず）、スルーする

Dさん以外の方は、心の中に何らかの波が立ちました。Aさんは腹が立ったかもしれません。Cさんは恐怖でしょう。Bさんは、あわれみの心を持ったことでしょう。

事実は1つ。「隣の人が舌打ちした」です。しかし、解釈の仕方で、さまざまな感情が沸き立ちます。

公衆の中の狭い空間で舌打ちをするというのは、マナーとして決して褒められたものではありません。しかし、その人にそれをやめさせることは簡単ではありません。現実問題、全く知らない隣人の舌打ちをやめさせることは難しいです。

一方、解釈は自分でコントロールすることができるものです。事実は1つですが、解釈は人それぞれです。1つの事実に対してさまざまな解釈があることを知り、自分の中でさまざまな解釈を多方面からできるようになると、いたずらに自分で自分を傷つけることは減ります。また、相手が意図して自分を傷つけようとしていたときでも、自分を守ることができます。

「事実」と「解釈」を見分けることができると、「きっとこの人はこうだ」といった決めつけを防ぐことができ、違いを受け入れやすくなります。これは本校の4つの校風のひとつ「恕の心」につながります。

自分自身が選択した答えによって、感情が変わり、思考が変わり、行動が変わり、結果が変わり、最終的には物事の捉え方が変わります。人は、顕在意識と無意識、そしてこれまで自身が経験してきた価値観から物事を判断してしまう生き物です。自身が追い込まれた時こそ、思考と視野が狭くなってしまいます。起ることをポジティブに受け止め、感謝へ転換できることが自身の強さにつながります。